

防府史料 第六十一集

明治期 玉祖神社年中行事

防府市立防府図書館

校訂・編集

重枝慎三

凡 例

- 一、本書の原本は、「玉祖神社年中行事」及び「芳府一宮古今神式祿控」であるが、この二冊を一冊に纏めるにあたって、統一書名を『明治期 玉祖神社年中行事』とした。
 - 二、翻刻にあたっては、可能な限り原文に忠実に、その体裁を損なわないようにした。「玉祖神社年中行事」については、原文の片仮名や万葉仮名、及び二行にわたる本文中の注釈など、原文において文字が小さく記してあるものについて、忠実にそれを再現することとした。
- 本文理解の便を図るため、必要に応じて、原文には無い文字一字分の空欄を設けるなどした。
- 三、不明の部分、及び原文の空欄については、□で示した。
 - 四、「芳府一宮古今神式祿控」における仮名遣いは、できるだけ原文に忠実にするため、片仮名・平仮名まじりとした。
 - 五、漢字の字体は一部を除き、原則として新字体に統一した。
 - 六、原文における明らかな誤記等は訂正したが、見せ消ちについては、必要に応じて例えば「青紙―五枚」のように表記した。

目次

玉祖神社年中行事（明治七年）…………… 1

芳府一宮古今神式録控…………… 65

玉祖神社年中行事
(明治七年)

玉祖神社年中行事

一月

一日

早旦神殿装束奉仕

御国旗ヲ揚ク

次塩湯大麻ヲ以テ殿内ヲ清ム

午前第八時宮司以下惣拝殿左方ニ着座

次宮司昇殿開扉了テ孫廂ニ候ス

此間大和歌ヲ奏ス

次献饌

此間同上

次宮司以下一同拝礼兩段再拝拍手

次宮司祝詞ヲ奏ス

了テ一同惣拝殿ニ退キ候ス

次撤饌餅ハ残シ置ク

此間大和歌ヲ奏ス

次閉扉

此間同上

次申捧

次退出

此時別殿并若宮瑤拜庭上ヨリ其方ニ向ヒ再拜拍手

同御門拜

祝詞

掛卷母恐伎

玉祖大神乃大前尔宮司位苗字名恐美恐美毛白佐久今日乃生日乃足日尔忌麻波里清麻波里御食

御酒魚乎始弓種々乃物乎備奉留事乎

皇神乃御心母平良氣久安良氣久聞食世止白須如此仕奉留尔依弓今母住前母

皇御孫命乃御世乎茂御世乃足御世尔斎比奉里此乃縣乃官人等公民尔至留方弓守給比惠給開止

恐美恐美母白須

神饌 八台 一座十六台下做之

白星由飯 黒飯 海魚広狭 海菜 品 野菜 品 塩水 酒 餅

祭典入用諸色

鳳尾草三把 輪飾 三丁

門松

美濃紙壹帖

奉書大二小二四枚

半紙

饌米黑白

海魚広物一尾狭物四尾

昆布 百目

海苔 四枚

人参又ハ蕪 四根

山葵 四根

酒 一升

塩 一升

橙 二

餅米 三升六合

葛粉 二合五勺

別殿御祖神社并佐野若宮

午後第一時参拝当番勤之

祝詞

掛卷母恐伎此乃

大神乃御前尔恐美恐美母白在久年乃始乃今日乃生日乃足日尔持斎麻波里慎美敬比御食御酒
及餅平捧備信弓拜奉留此状平聞食天

天皇乃大御代平茂御代乃足御代尔斎奉利又此里乃公民平夜乃守利日乃守尔守利幸開給倍止
宇自物額根突拔弓恐美恐美母申須

神饌 三百
洗米 酒 餅

本日賀正表ヲ教部省ニ出ス

同去十月ヨリ十二月迄ノ奉務表ヲ取調ヘ追テ之ヲ教部省及ヒ県庁ニ出ス

毎月一日神官各自前月ノ奉務表ヲ作り社務所ニ出ス当番之ヲ取纏メニヶ月括ニシテ長官ニ出ス長官之ヲ見閲シ更ニ清書ス

同ニヶ月一社経費ヲ計算シ薄帳正ニ副ニヨ作り県庁出納課ニ出ス

同去一月ヨリ十二月迄ノ氏子入及ヒ出生夕兒取調ヘ公議所 現ハ改正掛之ヲ取纏ムニ出ス
同去月中ノ賽物ヲ取調フ 毎月一日此例ニ依ル已下載セス

賀正表認方

大奉書横ニツ折ニシテ堅西ツ折

上包美濃紙堅ニツ折

年号 宮司

上書

月日 教官 位苗字名

一月一日賀正表

周防国佐波郡大崎村鎮座国幣小社

玉祖神社

二日
 早旦神殿装束奉仕
 午前第七時献饌当番勤之

権宮司
 教官
 祢宣
 " 同
 権祢宣
 " 同
 権祢宣
 " 同
 権祢宣
 " 同
 権祢宣
 " 同

又上ヲ美濃紙袋ニシテ

山口縣管下周防国

玉祖神社

教部長官当 宮司――

権宮司――

紀元天長ノ両節モ同様ナリ

上書

紀元節賀表

――

天長節賀表

――

神式如常

神饌 二百

飯 酒

三百

元始祭

此日宮中ニ於テ賢所并天神地祇御歷代皇靈ヲ御親祭在セラル是天津日嗣ノ本始ヲ祝シテ
歳首ニ祀リ給フ義ナルヲ以テ元始祭ト称ス因テ地方ニ於テモ此大典ヲ遵奉シ祭祀ヲ執行スヘシ

神社祭式ニ見エタリ 金幣五円内一円廿五錢神饌料大蔵省ヨリ下行経費定額内

早旦神殿装束奉仕

御国旗ヲ揚ク

次塩湯大麻ヲ以テ殿内ヲ清ム

午前第八時宮司以下惣拝殿ニ着座

次宮司昇殿開扉了テ孫廂ニ候ス

此間大和歌ヲ奏ス

次献饌神ヲロニ含ム

此間同上

次正権宮司玉串ヲ執テ拝礼兩段再拝拍手

玉串ハ等外ニ名執テ昇殿シ傍ニ就テ之ヲ渡ス了テ正権祢宜ニ名ニ附ス正権禰宜之ヲ案上ニ

備フ 正権祢宜ハ等外一同昇殿シ傍ニ候ス

次宮司祝詞ヲ奏ス

了テ正権宮司左右ニ退キ候ス

次禰宜以下拝礼兩段再拝拍手

次撤饌

此間大和歌ヲ奏ス

次開扉

此間同上

次串拝

次退出

此時別殿并若宮遙拝

祝詞

掛卷母恐伎

玉祖大神乃大前尔宮司位_丑字名_丑恐美_丑恐美母白左_丑年始乃今日乃祭尔大前乎持_丑斎麻波里慎_丑美敬
比奉留御食波和稻荒稻尔御酒波甕上高知甕腹満並弓_丑鱒乃_丑狭物奥津藻菜_丑边津藻菜

甘菜辛菜尔至留麻弓尔置足波志弓任奉留事乎平良氣久安良氣久聞食弓
天皇乃大朝廷乎始弓四国乎堅磐尔常磐尔守利幸波倍給比仕奉留百官人等公民尔至留麻弓尔伊
賀志夜具波衣乃如久立荣志菜給倍止白須事乎聞食世止恐美魂美母白須

神饌 八台

白黒飯 和稻米不串飯 荒稻米不串飯 海川魚 海菜 品 野菜 品 塩水
酒 餅

祭典入用諸色

玉串 二枝 中奉書二枚

半紙

粃又ハ黒米 黒米又ハ白米

鯛又ハ□二尾 鯉又ハ鮒 一尾

昆布 百目 海苔 四枚

人参又ハ蕪四本 山葵又ハ生姜四本

酒 一升 塩 一升

橙 二 餅米 三升六合

葛粉 二合五勺

別殿并若宮

午後第一時参拝当番勤之

祝詞

掛卷母恐伎此乃

大神乃御前尔恐美恐美母白佐久今日乃生日乃足日尔御食御酒備開捧弓仕奉留事乎平良氣久
安良氣久云々 已下一日二同シ

神饌 三百

飯 酒 餅

四日 此日ヲ以テ平常ノ式トス 平日之ニ準抛スヘシ

日供当番勤之

午前第七時昇殿物捧殿左方ニ着座

神殿已下物拝殿ニ至ルマテ麗掃等外勤之

次台盤ヲ立

次献饌

次拝礼兩段再拝拍手

次祝詞ヲ奏ス

了テ物拝殿ニ退キ候ス

次撤饌

次申拝

次退出

此時別殿并若宮遙拝

祝詞

玉祖大神乃御前尔恐美恐美母白須日每尔御饌奉利天拝奉留此状乎聞食天

天皇乃大御代乎堅磐尔常磐尔斎奉利国内乃官人等公民尔至留迄夜乃守利日乃守利尔守利幸倍

給停止乎自物頸根衝拔乎恐美こも毛白須

神饌 一台

洗米一座五合宛ノ定則現ハ

宿直兩名勤之当番之ヲ兼勤ス

禰宜以下日数十日詰ニテ交代ス弁当料日別老人二七錢ヲ賜フ

社頭巡視 昼一次 夜一次

五日

新年宴会

社頭神式ナシ

御国旗ヲ揚ク

十四日

大掃除

此日時ニ一人ヲ雇ヒ当番之ヲ督シテ境内ヲ清潔ニス 毎月両日ノ掃除之ニ倣ヘ

十五日 式日

献饌ニ勤之

神式如常

祝詞

掛卷母恐伎

玉祖大神乃大前尔恐美とと恐美毛白須今日乃生日乃足日尔常乃例乃随御食御酒備開捧与拝
奉留此状平平良氣久安良氣久云と 已下如常日

神饌 二百

洗米 酒

別殿并若宮

午前第十時参拝 三百二同シ

神饌 二百

洗米 酒

本日教導入費出金 毎月此例ニ依ル 因テ已下載セス

一社中豫テ本月教導入費ヲ当番ニ附託ス当番之ヲ取纏メ置キ本日改正掛ニ出ス

廿一日 式日

献饌 当番勤之

神式十五日ニ同シ

別殿并若宮参拝 十五日ニ同シ

二十九日

大掃除

三十日

後月輪東山陵遙拝

本日 孝明天皇御崩日ナルヲ以テ宮中ニ於テ御親祭在セラレ又勅使ヲ山陵ニ差遣シ幣帛ヲ
タテマツラル因テ該神社ニ於テ遙拝スヘシ 神社祭式ニ見エタリ 金一円五十錢定額内大蔵省ヨリ
下行

早旦神殿装束奉仕

御国旗ヲ揚ケ

次遙拝所ヲ奉仕ス

社頭東ノ広庭ニ荒砂ヲ散布前日輪之シ新薦ヲ敷キ高机一脚ヲ設ケ其上ニ玉串ヲ献ル 遙拝

畢レハ玉串ハ焼却ス

午前第八時昇殿

神式如常

次遙拝兩殿再拝拍手

拝辞

掛卷母忍伎

後月輪東山陵乃大前平遥尔拝美奉良久止白須

遥拝所入用諸色

齋竹 四本 左繩 一把

半紙 一帖 榊 一枝

二月

一日 式日

献饌惣出仕

午前第八時宮司以下惣拝殿ニ着座

次宮司昇殿孫廂ニ候ス

次台盤ヲ立ツ 常ノ折敷ヲ用フルニ依テ此儀アリ

次献饌

次宮司以下一同拝礼而段再拝拍手

次宮司祝詞ヲ奏ス

了テ一同惣拝殿ニ退キ候ス

次撤饌

次申拝

次退出

此時別殿并若宮瑤拝

祝詞

掛卷母恐伎

玉祖大神乃大前尔宮司位苗字名恐美恐美母白佐久今日乃生日乃足日尔御酒御食乃御魚乎捧
奉利云云、已下如常

神饌 四台

飯 酒 魚 塩水

別殿并若宮参拝 一月十五日ニ同シ

本日去月中ノ経費ヲ計算シ薄帳ニ記シ長官ニ出ス長官之ニ聞印ス 毎月一日此例ニ依ル

四日

祈年祭斑幣

社頭神式ナシ

御国旗ヲ揚ク

十日

大掃除

十一日

紀元節 惣出仕

本日 神武天皇御即位日ニ当ルヲ以テ紀元節ト称ス此日宮中ニ於テ御親祭在セラル因テ該神社ニ於テ遥拝スヘシ云々 已上神社祭式ニ見ル 金二円七拾五錢一円廿五錢神供料一円五十錢遥拝式入費大藏省ヨリ下行定額内

早旦神殿装束奉仕

御国旗ヲ揚ク

次遥拝所ヲ奉仕ス 一月三十日ニ同シ

午前第八時献饌 其式元始祭ニ同シ

次遥拝

祝詞

掛卷母恐伎

玉祖大神乃大前尔宫司位甲字名魂美魂美母白佐久今日乃生日乃足日尔常乃例尔依天大前乎云
と 已下元始祭二同シ

拜辞

掛卷母恐伎畝傍檀原宫尔天下知食志と
天皇乃大靈乃大前乎遥尔拜美奉良久止白須

神饌 七台

白飯 黒飯 海川魚 海菜二品 野菜二品 塩水 酒

祭典并遥拜式入用諸色

玉串 三枚 大奉書二枚
中奉書二枚 半紙 二帖
黒白米 鯛 二尾
鮒 昆布 百目
海苔 四枚 人参 四本
山葵 四本 酒 一升
塩 一升 鰹 四本

齋竹 四本
左繩 一把

別殿并若宮參拝如常

神饌 三百
飯 魚 酒

本日拝賀表ヲ出ヌ 認方二月一日ノ條ニ出
同三大節ノ一ヲ以テ酒饌料ヲ賜フ

十四日

大掃除

十五日

献饌如例

別殿并若宮參拝同上

廿一日

献饌如例

別殿并若宮参拝同上

廿八日

大掃除

吉日

祈年祭

本月四日太政官序ニ於テ伊勢神宮宮中皇靈等ノ幣帛ヲ使ニ斑チテ發遣セシム次テ各地方ノ官幣社国幣社ヘ幣帛ヲ斑ツ各地到着ノ後日ヲ撰ヒテ祭祀スヘシ云々 神社祭式ニ見エタリ 金幣六円一円廿五錢神饌料式部寮ヨリ下行定額外地方官参向シテ之ヲ捧ク

前日ヨリ宮司以下出頭シテ齋戒ス

先是当番祭日已ニ定ルノ報ヲ得ルヤ役夫五人差立ヘキ由ヲ云議所ニ申立置キ文案後ニ出是日ヨリ境内ヲ掃除シ又祭典入用ノ諸色ヲ弁シ諸事ニ注意ス

当日早旦神殿装束奉仕

向拝并鳥居ノ注進ヲ代ヘ又齋竹ヲ新ニス

御国旗ヲ揚ク

次祓式 仮社務所ニ於テ之ヲ行フ

次塩湯大麻ヲ以テ殿内ヲ清ム

午前第八時宮司以下惣拝殿右方ニ着座

次地方ノ長官以下惣拝殿左方ニ着座神官揖之

答揖

先是地方官控処ニ社官ヲ以テ参詣アルヘキ由ヲ達シ導キテ荒垣外 雨儀ノ時ハ便宜ノ処ニ於

テ盥嗽シ了テ権禰宜幣ヲ以テ之ヲ清ム属幣櫃物ヲ砌上ニ置ク

次宮司地方官ニ一揖シテ昇殿開扉了テ孫相ニ候ス

此間大和歌ヲ奏ス

次献饌

此間同上

了テ宮司本座ニ復ス

次案一脚幣案ヲ祢宜神殿孫相ニ同一脚玉串案ヲ等外幣殿ニ同一脚仮幣案ヲ等外拝殿ニ立ツ

次属御幣物ヲ辛櫃ヨリ出シ殿ニ昇リ仮ニ案上ニ置ク

次宮司御幣物ヲ執テ神前ノ案上ニ奉ル再拝拍手

此時拝殿仮ノ幣案ヲ撤ス

次同官祝詞ヲ奏シ了テ本座ニ復ス

次地方ノ長官玉串ヲ奉リ拝礼再拝拍手

玉串ハ県掌執テ昇殿シ傍ニ就テ之ヲ渡ス了テ祢宜ニ附ス禰宜之ヲ案上ニ備フ

祢宜ハ臬掌下一同昇殿シ傍ニ候ス

次同官員拝礼

次正権宮司拝礼玉串ヲ奉ル拜礼兩段再拜拍手

玉串ハ等外執テ昇殿シ傍ニ就テ之ヲ渡ス了テ祢宜ニ附ス禰宜之ヲ案上ニ備フ

了テ正権宮司左右ニ退キ候ス

次権宮司祢宜以下拝礼同上

了テ宮司以下一同本座ニ復ス

次官員自拝

了テ次宮司昇殿

次御幣物ヲ撒ス

次撒饌

此間大和歌ヲ奏ス

次閉扉

此間同上

了テ宮司本座ニ復シ地方官ニ揖ス地方官答揖

次翠簾ヲ垂ル

次直会

了テ地方官ヲ揖ス地方官答揖シテ退出

次宮司已下退出

此時別殿并若宮遙拜

祝詞

掛卷母恐伎

玉祖大神乃大前尔宮司位苗字名魂美魂美母白佐久今年祈祭尔御幣捧奉良志米給布是以今日大前乎持齋麻波利慎敬比奉留御食波和稻荒稻尔御酒波甕上高知甕腹滿並弓鱒乃広物鱒乃狭物奥津藻菜边津藻菜甘菜辛菜尔至留麻尔置足波志弓仕奉留事乎平良氣久聞食弓敷座留公民我取作良牟五穀物乎始弓処ゝ尔生出牟種々乃色物乎母弥益ゝ尔成幸億給比平良氣久安良氣久新嘗祭仕奉良志米給倍止白須事乎聞食世止魂美母白須

神饌 七百

和稻 蕨稻 海川魚 海菜 品 野菜果 品 塩水 酒

祭典入用諸色

齋竹 四本 左繩

櫛 六本大一中一小四 幣 一本

中奉書二枚 広折 一帖

半紙 一束

青紙 十枚

麻 十文目

熨斗 二枚

粃或ハ黒米

黒米或ハ白米

鯛 二尾

鯉或ハ鮒二尾

昆布 百目

海苔 四枚

人参 四本

山葵 四本

酒丹釀三升

銀杏 一升

塩 一升

黒米 一升

蠟燭 一百目

祝詞 一卷

式書 三本 一本ハ社務所控 二本ハ地方官へ

紅白絹各貳尺

役夫申立之文案

一役夫 七人

内三人前日仕構ノ分 四人本日ノ分

右来ル何日

玉祖神社ニ於テ祈年祭執行ニ付如例前書ノ役夫被差出可被下候此段御依頼仕候也

当番姓名 印

充ナシ

三月

一日

献饌如例

別殿并若宮参拝同上

十二日太陰曆ニテ二月五日ナリ本年本日ニ当ル

国祭

在昔祈年祭国衙ニテ班幣本日祭式執行セシヲ以テ今尚其風ヲ存シ之ヲ国祭ト称ス地下人此日ハ業ヲ休メ本社ニ参詣シ又夜中燈火ヲ献ス

神式ナシ

十四日

大掃除

十五日

献饌如例

別殿并若宮参拝同上

十七日 太陰曆ニテ二月十日ナリ本年本日ニ当ル

若宮例祭当番勤之

午後第二時参拝

献饌地下中ヨリ献之

神式如常

廿一日

献饌如例

別殿并若宮参拝同上

三十一日

大掃除

四月

一日

献饌如例

別殿并若宮参拝同上

本日前三ヶ月ノ奉務表ヲ出ス事例ノ如シ 其儀一月ノ條ニ委シ

同前三ヶ月ノ経費ヲ計算シ薄帳ヲ出ス事例ノ如シ同上

此外如常

二日

畝傍山東北山陵遥拝

本日 神武天皇御崩日ナルヲ以テ宮中ニ於テ御親祭在セラル又勅使ヲ山陵ニ差遣シ幣帛ヲ奉ラル因テ該神社ニ於テ遥拝スヘシ云々 神社祭式ニ見エタリ 金一円五十銭定額内大蔵省ヨリ下行

神式并遥拝式等総テ一月二十日ニ同シ

御国旗ヲ揚ク

拝辞

掛卷母恐伎

ウシトラ
畝傍山東北山陵乃大前乎遥尔拝美奉良久止白須

十四日

大掃除

十五日

献饌如例

別殿并若宮参拝同上

廿一日

献饌如例

別殿并若宮参拝同上

三十日

大掃除

五月

一日

献饌如例

別殿并若宮参拝同上

木 廿三日 従前ハ太陰曆ニテ四月上辰日ナリ 明治七年本日ニ当ルヲ以テ定日トス

玉岩窟祭

午後第二時参拝並舞動之

献饌

神式異ナル儀ナシ

祝詞

今日乃生日乃足日尔常乃例尔依弓持斎麻波里大前尔御食御酒奉利弓仕奉留事乎平良氣久安良氣
久聞食給閉止宇自物頸根突拔弓魂美魂美母白須

神饌 二百

洗米 酒

十四日

大掃除

十五日

献饌如例

別殿并若宮参拝同上

廿一日

献饌如例

別殿并若宮参拝同上

三十一日

大掃除

六月

一日

献饌如例

別殿并若宮参拝同上

本日去十二月ヨリ本年五月マテノ社入高ヲ合算シ十分割ノ一本月二十日限りニ神道事務局へ
出ス

十四日

大掃除

十五日

献饌如例

別殿并若宮参拝同上

廿一日

献饌如例

別殿并若宮参拝同上

廿九日

大掃除

三十日

大祓

早旦神殿装束奉仕

旗賞ヲ揚ク

次祓ノ座ヲ設ク

向拜ノ前左右ニ班幔ヲ引廻シ新薦ヲ敷キ其上ニ軾ヲ敷キ地方官左神官右祓ノ座トス又中央ニ新薦ヲ敷キ高机ヲ立祓物ヲ置キ其前ニ祓詞ヲ座ヲ設ク 雨儀ノ時ハ通夜所ニス 金二円五十銭

大藏省ヨリ下行定額内

午後第二時宮司已下祓ノ座ニ着ク 現場ハ物拜殿

次宮司昇殿開扉

次献饌

次宮司以下拝礼兩段再拝拍手

次宮司祝詞ヲ奏ス

次宮司以下下殿祓ノ座ニ着ク

次神官中央ノ座ニ着キ群集諸人ノ方ニ向ヒ祓詞ヲ読ム

次神官各切麻ヲ執テ祓フ

此時群參ノ諸人ニ切麻ヲ渡シ各祓ハシム

次宮司以下昇殿

次撤饌

次宮司閉扉了テ下殿シ本座ニ復ス

次退出

祝詞

掛卷母恐伎

玉祖大神乃大前尔宮司位耳甲字名恐美恐美母白佐久此縣乃官人又 大神尔仕奉留神官等乎始
弓敷座留里々乃公民等我過犯氣牟雜々乃罪事乎今年乃六月乃今日乃夕日乃降尔祓物乎置座尔
置弓祓清牟留事乎祓処乃神等尔神議々給比諸人乃枉事罪穢乎祓給比清給倍止乞祈奉留事乃
由乎彌高尔聞食世止恐美恐美母白須

祓詞

此縣乃官人又

玉祖大神尔仕奉留神官等乎始弓敷座世留里々乃公民等我天津罪国津罪止過犯氣牟雜々乃罪
事乎今年乃六月乃今日乃夕日乃降乃大祓尔祓物乎置座尔置弓祓清牟留事乎瀨織津姫神速秋
津姫神氣吹戸主神速佐須良姫神相宇豆那比海川尔持出弓根国底国尔伊吹放佐須良比
失弓牟如此失弓婆此縣乃官人神官等乎始弓里々家々乃男女尔至留乃自今日始弓罪止云罪
咎止云咎波不在止言祓布留事乎諸聞食世止官留

神饌 四台

洗米 乾魚 海野菜二品宛 酒

祓物

木綿 一両 代ルニ常ノ木綿五尺ヲ以テス

布 五尺 麻布ヲ用フ

神饌并祓式入用諸色

榲木 十本 中奉書三枚

半紙 二帖 青紙 五枚

鱒又ハ鱈 昆布 五十目

牛房又ハ生姜 酒 一升

木綿 五尺 布 五尺

祓串竹六百本 麻 二十目

木綿貳ノ料二丈八尺

七月 一日

献饌如例

別殿并若宮参拝同上

本日前二ヶ月ノ経費ヲ計算シ薄帳を作り県庁ニ出ス 如例 尤去六月ハ會計年度ニ付前年七月ヨリ去六月マテノ請取高ト仕払高トヲ概算シ 定額ヲ出スヘカラス若シ非常ノ出費ヲラハ別度ニ申立請取ヘシ 残金返納決算ノ上更ニ本月ヨリ来ル十二月マテ半年ノ定額金ヲ受取ヘシ
同前二ヶ月ノ奉務表ヲ出ス事例ノ如シ

此外如常

十四日

大掃除

十五日

献饌如例

別殿并若宮参拝同上

廿一日

献饌如例

別殿并若宮参拝同上

三十一日

大掃除

吉日 太陰曆ニテ上月中ノ日ヲ撰ヒテ之ヲ執行ス因テ定日ナシ大冨佐野両日ナリ

虫除廻在当番并外二名勤之

早旦神殿装束奉仕

朝儀如常

時刻昇殿

次拝礼兩段再拝拍手

次祝詞ヲ奏ス

了テ昇殿案上ノ神幣ヲ執テ下殿シ之ヲ地下惣代人等外ニ渡ス

神幣ハ豫テ神前ノ案上ニ備ヘ置ク

次廻在

了テ神幣ヲ神前ニ奉安ス

次献饌

次拝礼祝詞ヲ奏ス

次撤饌

次退出

祝詞

掛卷母恐伎

玉祖大神乃御前尔恐美恐美母白佐久八十日日波有礼止今日乃此日乎生日乃足日止撰定弓斎麻
波里清麻波里神敝乎載捧弓大神乃敷座田留此里乎御廻利仕奉流此状乎平良氣久安良氣久聞食弓
百姓我取作留奥津御年乎昆虫乃禍無久八束穗乃茂穗尔成幸倍給倍止宇自物頸根突拔弓恐美
こゝ毛白須

掛卷母恐伎吾

大神乃大前乎持斎麻波里慎美敬比御食御酒種と奉利弓拜奉留此状乎平良氣久安良氣久聞食世止
恐美こゝ毛白須

神饌地下ヨリ献之

洗米 乾魚鱉 海野菜 二品宛 酒

御札六ツ切八百枚 大寄村及開出古祖原へ頒布ス佐野村ハナシ

半紙ハ地下惣代ヨリ出ス

八月

一日

献饌如例

別殿并若宮参拝同上

十四日

大掃除

十五日

献饌如例

別殿并若宮参拝同上

廿一日

献饌如例

別殿并若宮参拝同上

三十一日

大掃除

注連繩調進 太陰曆ニテ八月一日ナリ 本年本日ニ当ル

本日神人宮附ノ者出頭シテ大鳥居并東裏鳥居向拝 以上四ヶ所ノ左繩ヲ調進 藁ハ神人宮附ノ者中ヨリ出ス 齋竹ヲ立ツ 西裏鳥居ハ江良村赤間某ヨリ調進 別殿鳥居ハ辰村井上丈之進林辰次郎ヨリ調進ス 宅地ニ本社ノ石祠アルヲ以テナリ 了テ第二次鳥居下ニ於テ清メノ式ヲ行フ 再拝拍手塩湯大麻ヲ以テ清ム等外勤之

注連揚其外入用諸色

葉付竹十本大四小六 榊 十本

半紙 五帖

米貳升七合 魚 見合セ

野菜類同上 豆腐 二丁

酒 一升 已上五品神人賄ノ用

本日神人宮付ノ者ニ酒飯ヲ給ス 一汁ニ菜肴豆腐酒一升

吉日 太陰曆ニテ二百十日前ナリ 因テ定日ナシ

風鎮祭当番勤之

早旦神殿装束奉仕

朝儀如常

時刻昇殿

次献饌

次拝礼祝詞ヲ奏ス

次撤饌

次退出

祝詞

掛卷母恐伎

玉祖大神乃御前尔恐美こと毛白須八十日日波有礼止今日乃此日乎生日乃足日止撰比定米弓御
食御酒雜々備奉利弓仕奉留事乎平良氣久安良氣久聞食天大神乃敷座世留此里乃公公民等我取作
良牟五穀乎始氏草乃片葉尔至留麻弓惡風暴雨尔不相賜豊尔令采給比守給比幸給倍止宇自物額
根突拔天恐美こと毛白須

神饌地下ヨリ献之

洗米

乾魚鱉

海野菜 豆品宛

酒

九月
一日

献饌如例

別殿并若宮参拝同上

十四日

大掃除

十五日

献饌如例

別殿并若宮参拝同上

十七日

神嘗祭遥拝

本日 宮中ニ於テ 御遥拝且賢所 御親祭在セラレ又勅使ヲ 神宮ニ差遣シ幣帛ヲ奉ラル

因テ該神社ニ於テ遥拝スヘシ云々 神社祭式ニ見エタリ 金二円五十銭 定額内大蔵省ヨリ下行

神式并遥拝式等総テ一月二十日ニ同シ

御国旗ヲ揚ク

拜辞

掛卷母恐伎伊勢乃

神宮乃大前乎遥尔拜美奉良久止白須

廿二日

本日ヨリ宮司以下惣出頭シテ齋戒ス

先是当番ノ者役夫五人差立ヘキ由ヲ会議所ヘ申立置キ 文案祈年祭ノ条ニ出 是日ヨリ境内ノ
掃除及ヒ祭典入用ノ諸色ヲ弁シ又廿五日ノ神事夫差出スヘキ由ヲ戸長ヘ申遣スヘシ 文案後ニ
出

本日盎并土鼎調進

是ハ往昔

仲哀天皇熊襲征伐ノ為筑紫ヘ行幸ノ時当所ニ於テ沢田ノ長 今ノ佐野村ニテ其長ノ子孫内田ト称
ス當代ハ織之助ト云フ ヲシテ高田ノ土ヲ以テ盎并土鼎ヲ作ラシメ本社ニ神供ヲ備ヘ玉ヒシ由ノ例ニ
テ今ニ佐野村内田ヨリ毎年盎二枚土鼎一口ヲ調進ス

同神供ノ餅ヲ調進ス

餅 四重 大二重二重米一升貳合 小二重一重米六合

神事夫申遣ノ文案

一 太鼓舁 二人

一 楯持 二人

但袴着

一 矛持 四人

但上下着

一 薦敷 二人

一 従者 十六人

但内八人袴着

合計二十六人

右本年某村へ相当リ候ニ付御心配可被下候也

玉祖神社

年月日 社務所

廿四日

前祭

依旧本日祭式ヲ行へトモ本祭ハ廿五日一日ナリ

早旦神殿装束奉仕

此時向拝并鳥居ノ下垂ヲ切代フ

旗章ヲ揚ケ

次祓式

次塩湯ノ大麻ヲ以テ殿内ヲ清ム權祢宜勤之

午後第□時宮司以下惣拝殿右ニ着座

次宮司中殿ニ昇リ祝詞ヲ奏ス

次同官昇殿開扉了テ孫廂ニ候ス

此間大和歌ヲ奏ス

次献饌榊ヲロニ含ム

此間同上

了テ宮司中殿ニ下リ着座

次権宮司中殿ニ昇リ着座

次両宮司奉幣

幣ハ等外ニ名執テ昇殿シ傍ニ就テ之ヲ渡ス了テ正権祢宜ニ名ニ附ス正権祢宜之ヲ案上ニ備

フ 正権祢宜ハ等外ト一同昇殿シ傍ニ候ス

次祢宜奉幣

其儀前ニ同シ

次権禰宜一人奉幣

其儀同上

了テ一同拝礼

次宮司祝詞ヲ奏ス

了テ拝殿ノ左ニ候シ以下本座ニ復ス

次撤饌

此間大和歌ヲ奏ス

次閉扉

此間同上

次占手相撲 第一次鳥居ノ下ニ於テ此式アリ

是ハ 仲哀天皇軍ノ吉凶ヲトヒ給ヒシ由ノ例ニテ今尚之ヲ行フ其式古朴ナリ或ハ心願ノ者アリ
テ之ヲ乙ヘハ再ヒス

祝詞

玉祖大神乃御前尔恐美母白須常例尔依利弓今日乃生日乃足日尔秋祭仕奉留事乃由乎平良氣久
安良氣久聞食世止白須

祝詞

玉祖大神乃御前尔宮司位里字名恐美魂美母白佐久恒例尔依里云乃日乃生日乃足日尔由満波利清万波里云伊豆閑黒益所焼飯乎比良加尔盛利云御酒波甕辺高知甕腹満並云山野乃物波甘菜辛菜青海原乃物波鱈乃広物鱈乃狭物奥津藻菜辺津藻菜尔至留万云雜物乎置足波云云称辞竟奉良久止白須如此乃状聞食云天皇我御世乎足御代乃茂御代尔斎比奉里此乃国内乃官人等百姓等尔至留万云夜乃守日乃守尔守幸景給停止字自物頸根衝拔云恐美魂美母白須

神饌 七百

白飯 黒飯 海川魚 海菜 品 野菜 品 塩水 酒

兩日祭典其外入用諸色

榊大中小七本 神殿大麻一 祓麻一 玉串一 御幸大麻一等

幣串六本 奉幣四 参向使清メノ幣一 御幸ノ幣

中奉書十枚 広折 二帖

半紙 二束 青紙 十枚

麻 十匁 熨斗 二枚

餅米 三升六合 糙 一枚

白米 黒米 一升五合

粃神饌飯ナレハ不用ナリ

鯛 四尾

鮎又ハ鯉鮒

鯉中 四本

昆布 二百目

海苔 八枚

人参又ハ生房八本

大根又ハ山葵八本

柿并九年保

酒丹釀三升

塩 一升

鳥 二羽

紅白絹各二尺

蠟燭 三百目

祝儀 十八封二十錢宛神人へ

同 二封 十錢宛世話人へ

同 二封 十錢宛占手相撲へ

同 一封 四十錢神人物中へ 神酒料トシテ

草履 十五足

葛粉 五合

本日醴酒ヲ醸ス

廿五日

例祭

年中祭祀中大祭一度ヲ以テ例祭ト称ス其日地方官参向シテ祭事ヲ担当ス云々 神社祭式ニ見エ

タリ 金幣三十拾円 一座十五円宛其内神饌料二円宛 大蔵省ヨリ下行定額内参向使之ヲ捧ク
早旦神殿装束奉仕

此時神輿ヲ物拝殿左側ニ装束安置ス 予旗其他一切御幸ノ調度モ之ニ準シ用意ス
旗章ヲ揚ク

次塩湯大麻

已下神式祈年祭ニ同シ

祝詞

掛卷母恐伎

玉祖神社乃大前尔宮司位甲字名玖美恐美母白佐久常乃例乃随今日乃御祭仕奉留翼故尔奉出
志給布幣帛波御衣波明妙照妙御食波和稻荒稻尔御酒波甕上高知甕腹満並弓鱈乃広物鱈乃
狭物奥津藻菜边津藻菜甘菜辛菜尔至留麻弓尔置足波志弓奉良志米給布事乎平良氣久安良氣久聞
食豆

天皇乃大御代乎足御代乃茂御代尔幸億和比仕奉留百官人等四方国乃公民尔至留麻弓伊賀志
夜具波衣乃如久立栄志米給倍止白須事乎聞食世止恐美恐美母白須

神饌 八台

黒目飯 海川魚 鳥 海菜 一品 野菜菓食一品 塩水 酒 餅

御幸前後ノ式

時刻神輿ヲ惣拝殿ノ中央ニ安置ス

次宮司神殿ニ候ス

次宮司神輿ヲ奉昇シ神殿階下ニ置キ簾ヲ垂ル

次宮司靈移シノ祝詞ヲ奏ス権宮司階ヲ上リ靈ヲ移ス禰宜簾ヲ捲ク

次神官神輿ヲ惣拝殿ニ奉昇ス

次浜宮ニ渡御

鹵簿後ニ記ス

次神輿ヲ中央ニ安置ス

次神官左方ニ列立

次神器ヲ案上ニ置

次宙司以下拝礼再拝担手

次台盤ヲ立ツ

次饌献

次宮司以下拝礼

次宮司祝詞ヲ奏ス

次撤饌

次神酒ヲ賜フ

次還幸神輿ヲ惣拝殿ニ安置ス

次宮司神殿階下ニ候ス

次神官神輿ヲ奉昇シ神殿階下ニ安置ス

次宮司靈移シノ祝詞ヲ奏ス

次権宮司階ヲ昇リ御靈ヲ移ス

此時宮司祢宜拝殿ニ候ス

次神官捲簾神輿ヲ奉昇シ拝殿ニ安置ス

次閉扉

此時大和歌ヲ奏ス

次直会

次神人ニ祿物ヲ附ス

次和歌献納

祝詞

今日乃生日乃足日尔御幸処尔渡奉良武止神輿装束奉里言打断物止劔弄物止矛五色乃旗雜乃物戴持氏奉仕留事乎御心毛安良計久平良気久間食志言此乃神輿尔遷座世止宇自物頸根突拔亙

恐美玖心美母白須

祝詞

今日乃生日乃足日尔此乃御幸所尔神輿居奉利弓御前尔御食御酒雜々物備奉氏称辞竟奉留
事乎聞食世止宇自物頸根突拔天恐美恐美母白須

祝詞

今日乃夕日乃降尔御幸所乃事毛竟倍奴礼婆神輿還志奉利天此乃神御座尔還志奉流事乎聞食世止
恐美恐美母白須

神饌 四台

洗米魚 野蒸二品塩 酒 餅

御幸所入用諸色

辛櫃 一口

折敷八枚 土器十五 洗米二合 鱈魚四本 瓶子一对中ニ醴酒ヲ実ス 餅重

野菜廿辛 塩二合 ホタリ一口中ニ醴酒ヲ実ス

高机 一脚 黒木机一脚

薦 廿枚内薦一枚

御幸函簿

柎 袴着 一人
黄御旗 如木白丁 原田方吉
柎 一人
矛 上下着 一人
矛 一人

矛 同上
御劔 権禰宜 鈴木逸雄
御神 権禰宜 吉野清次
矛 一人
御劔 権禰宜 鈴木逸雄
御神 権禰宜 吉野清次
從者二人

御幣 権禰宜 手塚猛昌
御旗 如木白丁 林辰左衛門

從者一人
御旗 一人
内田仁兵衛

引綱 上下着 井上文之進
駕輿丁 如木白丁 原田好五郎 末成千之進

引綱 一人 田中為藏
駕輿丁 一人 末成徳次郎 林七五郎

引綱 上下着 清水喜二郎
呉床 袴着 末成岩右衛門

引綱 一人 内田彌藏
呉床 一人 光清亀五郎

御旗 如木白丁 町田伊八
宮司 近藤清石

御旗 一人 石田伊兵衛
從者一人

権宮司 城村五百樹

禰宜 内海静造

辛櫃

如木貞了

岡本寅吉

從者二人

從者一人

と

虎吉

廿六日

神器ヲ収メ余事ヲ拾フ

本日賽物ヲ取調フ

同神供ヲ分配ス

此時 餅ヲ戸長畔頭其他縁故アル者ニ授与ス

三十日

大掃除

十月

一日

献饌如例

別殿并若宮参拝同上

本日前三ヶ月ノ奉務表ヲ出ス例ノ如シ

同前三ヶ月ノ経費ヲ計算シ簿帳ヲ出ス事例ノ如シ

十四日

大掃除

十五日

献饌如例

別殿并若宮参拝同上

廿一日

献饌如例

別殿并若宮参拝同上

三十一日

大掃除

十一月

一日

献饌如例

別殿并若宮参拝同上

三日

天長節

本日

天皇御誕辰ナルヲ以テ各地ニ於テ万寿無疆ヲ奉祝スヘシ 神社祭式ニ見エタリ

社頭神式無シ

御国旗ヲ揚ケ

本日拝賀表ヲ出ス

同三大節ノ一ヲ以テ酒饌料ヲ賜フ

十日

新嘗祭班幣

社頭神式無シ

十四日

大掃除

十五日

献饌如例

別殿并若宮参拝同上

廿一日

献饌如例

別殿并若宮参拝同上

廿三日 本社ノ如キハ幣帛延着ニ付 本日ニハ行ハレス

新嘗祭

社頭神式無シ

御国旗ヲ掲ク

三十日

大掃除

吉日 先例ヲ以テ之ヲ推ニ 多クハ十一月ニ越ス

新嘗祭

本月十日太政官庁ニ於テ幣帛ヲ班ツ云々 神社祭式ニ見エタリ 地方庁幣帛到着ノ後日ヲ撰ヒ 祭祀スヘキ由ヲ達セラル金幣六円一円二十五銭神饌料式部寮ヨリ下行定額外其儀総テ祈年祭ニ同シ 諸事祈年祭ノ條ヲ見合スヘシ

祝詞

掛卷母恐伎

玉祖大神乃大前尔宮司位苗字名魂美魂美母白佐久今年新嘗祭尔御幣捧奉良志米給布是以今

日大前乎持斎麻波利

皇神等乃成辛波倍給億人束穗乃秋乃初穗乎御饌御酒尔仕奉利鱒乃狭物奥津藻菜

边津藻菜甘菜辛菜尔至留麻弓尔置足波志弓奉留事乎平良気久安良気久聞食弓

天皇乃大朝廷乎始弓仕奉留百官人等四方国乃公民尔至留麻弓洩留と事無久守辛波倍給比立菜

志米給倍止白須事乎聞食世止魂美魂美母白須

神饌 八台

和稻 或ハ 白黒飯 荒稻 或ハ 白黒飯 海川魚 海菜二品 野菜菓一品 塩水

酒 餅

祭典入用ノ品

餅米 二升四合 餅 重二重三付 一升貳合

外祈年祭ニ同シ

十二月

一日

献饌如例

別殿并若宮参拝同上

本日来一月ヨリ六月マテ半ケ年ノ定額常費ヲ申立追テ之ヲ受取ヘシ

同本年六月ヨリ十一月マテノ社入高ヲ合算シ十分ノ一本月二十日ヲ限リ神道事務局ヘ出ス

十四日

大掃除

十五日

献饌如例

別殿并若宮参拝同上

廿一日

献饌如例

別殿并若宮参拝同上

三十日

大掃除

三十一日

大祓

六月ニ同シ

除夜祭

金二円二十五銭大蔵省ヨリ下行定額内

午後第七時昇殿

神式一月一日ニ同シ

祝詞

掛卷母恐伎

玉祖大神乃大前奈宮司位重字名恐美恐美母白佐久今年十二月乃三十日乃夜乃祭尔大前平慎
敬比御食御酒魚平始号種と乃物乎云と

神饌

白黒飯 海魚広狭 海菜二品 野菜二品 塩水 酒

祭典其外入用諸色 祓式入用ノ品ハ六月ニ同シ

奉書中二枚 広折

半紙

饌米黒白 海魚広物 尾狭物四尾

鯉中 四本 昆布 百目

海苔 四枚 蕪又ハ人參四根

山葵 四根 酒 一升

塩 一升 蠟燭 二百目

此外来一日入用ノ諸色一同ニ弁スヘシ

別殿并若宮参拝

神饌

洗米 魚 酒

本日神供ノ餅ヲ調進ス

餅米七升貳合

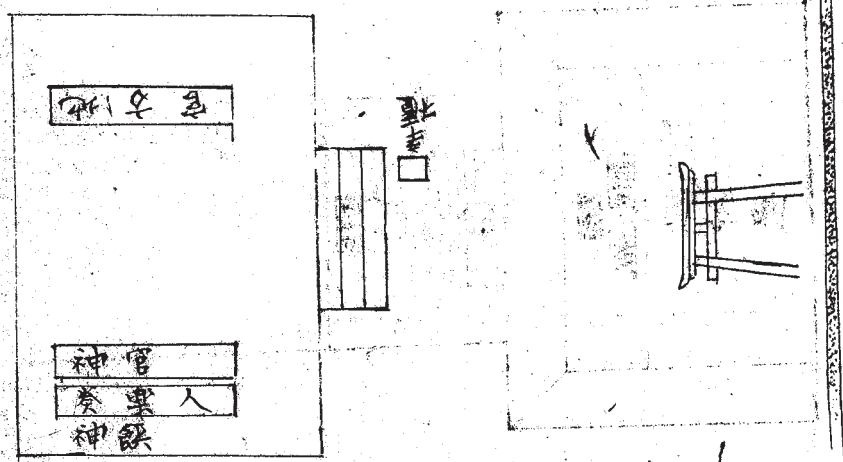
餅 四重 一重米一升二合宛

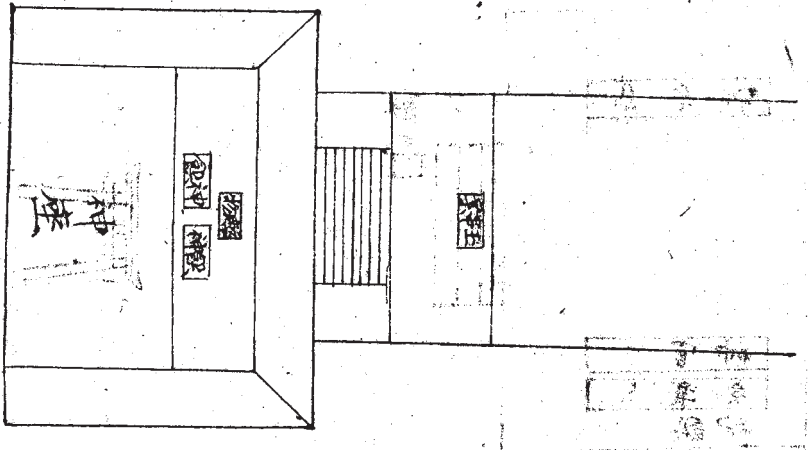
同 四重 一重米六合宛

同本社并摂末社ノ門松輪飾ヲ奉仕ス

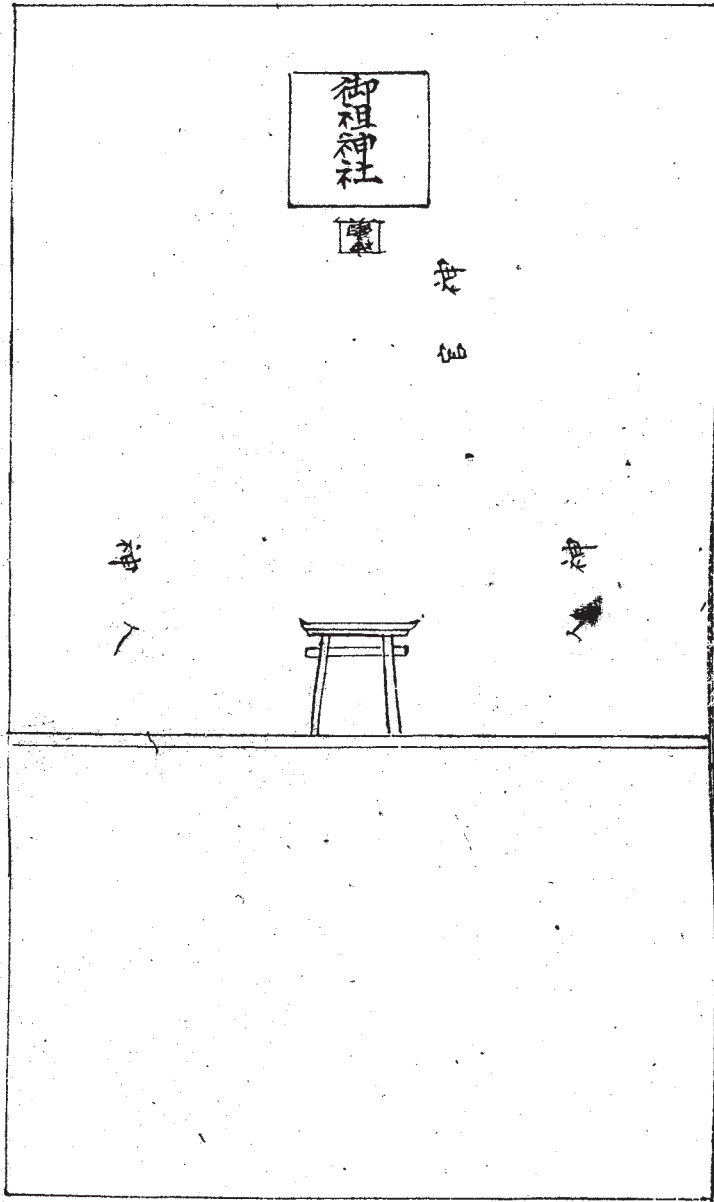
同本年中経費ノ出納ヲ概算シ長官ニ出ス

社頭裝飾





御幸所ノ圖



芳府一宮古今神式録控

御神式

正月

元三先

宝祚延長 玉体安全次

殿様 御武運長久 御寿命遠長 国土安穩 五穀豊熟 御祈禱執行 御祈禱物

同十日 御城直上納之事

同五日

牛王祭 神主奉幣勤之 献供別当勤之 御神楽渡辺主計勤之

月次御祈禱朔日ヨリ三日迄三家勤之

但 御祈禱物 三家格番ニシテ郡庁差出居候所 其後三家御祈禱物一所ニシテ

別当ヨリ差出候事

月次御祈禱被仰付候御証拋物左之通

一筆令啓達候 就は御宰判所 於一宮ニ御両殿様御月次之御祈禱被仰付候 為御祈禱料
老ケ年ニ 米三俵 銀子老枚 被遣候敷 御祈禱相調御札守 貴様へ差出候様ニと 之
儀ニ候間 此段神主へ可被仰渡候 恐惶謹言

二月十日

毛利八郎右衛門

宍戸四郎五郎

三井吉左衛門様

右御祈禱料 其後減少ニ相成 只今ニテは 銀五十一匁五分ニ相成 此分三家三ツ割
ニシテ受候事

同七日

白馬神事 古伝ニ曰

景行天皇

仲哀天皇

右御臨幸の時 重き公事を御社ニ行れしより後の例となれなん

同七日

御神式三家勤之

月次 朔日 十五日 廿八日 式日 神勤三家勤之

種替 御祈禱三家勤之

但御祈禱物郡諸郡庁へ配之

月朔 奉幣神主勤之

二月五日

国幣之御祭奉幣神主勤之 別当献供

但古伝ニ曰 国司第一之祭式 国中之諸民国祭と称して群参して牛王を受 御神

楽 渡辺主計勤之 右終候上神酒頂戴席並左之通

中殿南向ニ而

神主	別当
----	----

明和二年大宮司佐甲式部より両家へ頼ニ付 加席之次第左之通

神主	別当
大宮司	

右神主奉幣 渡辺主計出勤等闕如之事

同五日

窟祭 古伝ニ曰 玉屋命岩隠坐し玉ふ所 往古四季之奉幣四月上ノ辰ノ日祭之 神主勤之 今ハ二月五日祭之 祭主同断

三月二日

神勤 両大宮司執行之事

五月五日

神勤 三家同様之事

六月朔日

奉幣 神主勤之 献供別当

但奉幣闕如之事

同月

稻虫除よりして田道御幸 神主別当出合神勤 尤同道供奉之儀ハ 神主一人勤之 御神幣之儀は別当ヨリ御幣持相渡候事

同晦日

大はらひ執行 両大宮司勤之

七月七日

神勤 三家同様之事

同月

二百十日前 風鎮御祈祷 神主別当出合 神勤之事

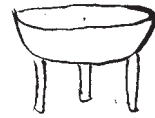
八月朔日

齋竹祭

内外鳥居御繩飭り並

御祖社同断 神主勤之

但齋竹と足鍋 大平盆等を 旧古ヨリ沢田の長と云し者献之 其子孫今ニ続て納来
其凶左之通



銘曰 一千六百七十一年
百一代之孫
内田織之進と有之事

御鳥居齋竹祭 古証文左之通

面書之通令承知候 先格も有之表書之廉々 御祝被成被遣候歟 三田尻御米銀之内を以
勘渡之可有沙汰候以上

同日

栗 勘兵衛
中川与右衛門殿

覚

- 一 御酒 貳升
 - 一 御熨斗 壹抱
 - 一 御散米 貳升
- 右
- 一宮鳥居齋竹祭為御祝物 御奉書辻差送申候歟 御請取可被成候以上

七月九日

尾崎利兵衛 両判
土屋大炊様

同月五日

御神幣調替 神主勤之 別当出合神勤左之通

<p>内陣北向ニ而 神主 別当</p>

同十四日

御神輿飭り近年御日並ニ付 十三日ニ繰上 佐甲并神人等勤之

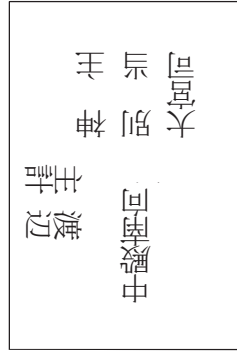
同夜子ノ刻三座之御神樂相調

神主別当大宮司并渡辺主計出席

三々九度之觀式有之先

御神前へ二丁子献之 神勤次ニ二丁子別当へ請之 下丕御供焚へ下之 亦二丁子神主請之 下丕御神樂衆へ下之次 一丁子大宮司請之 亦一丁子神人頂戴之

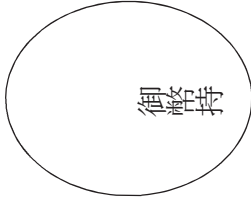
席並左之通



右二と九度之觀式 亦渡辺主計出席 神樂等闕如之事

次觀式終 玉垣外にて 卜手之相撲席並之図左之通

南向



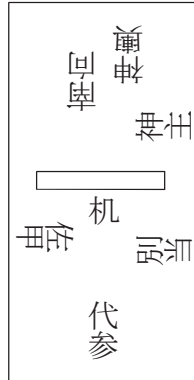
着席中古より闕如之事

仲哀天皇
神功皇后

但筑紫を征伐し玉太記 御舟を此浜に依られ 高田の土を以て土器を作らしめ 神供
 を備へて軍の吉凶を卜なひ祭り玉ふ 今ト手の相撲ハ 其遺法に御座候事

同十五日

新湯立神樂 神官鼓頭勤之 神主奉幣勤之 尤只今神官鼓頭等出席無之候事
 同日右田より代参之節、席並之図



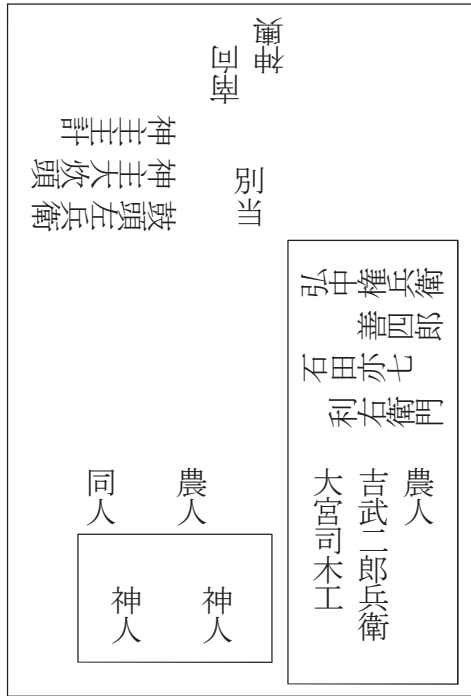
右代参へ振幣佐甲 别当道案内トして左右へ相並 社参之事
 次ニ御幸之節 三家行道左之通

神主

神輿 别当

大宮司

次ニ浜殿席並之図左之通



上件之通神主と有之候者 土屋家旧職ニ御座候事
 右八宝曆年中迄之席並之図

当今御幸并浜殿席並之図左之通
 御幸之次第

先塩桶 吹貫 五色職 大鉾 小鉾 四神鉾 猿田彦 獅子 御供 御太刀 御神幣

土屋大宮司 農人神人

別当 神輿

佐甲大宮司 同 同

浜殿席並之図左之通



右佐甲并農人比肩二て一同振幣之事
御幸場所之儀ハ土屋家抱畠山を以献之

同十五日夜 卜手之相撲終

神輿移シ 別当一人 薬師仏を相移候事

同十六日

神輿より上遷宮之節 別当薬師仏遷之 其節佐甲家右薬師仏へ差幣仕居候事 右慶應年中 右仏像取除被仰付候ニ付 御霊代として幣帛貳本 両大宮司調之 三家出合勸請之上 一応両大宮司頂戴 其上ニて別当へ相渡 右人より神輿へ相移シ 両大宮司差幣之事

御神体御遷座之節ハ 土屋家御神孫ニ付 上古より奉守遷宮相調 僧徒等手を触れ候儀は不相成候事

御祖社 高皇産霊尊

往古ハ十五日月之出ヨリ於御祖社ニ舞樂始リ 亦釣垂之遊有リ 釣舟田嶋浦より船三艘を奉る例なり 社官鮮魚を釣りて奉供有之 当社釣垂之神事と申伝候事

右此釣舟いつとなく中絶 其舟之代りに田嶋より御祭礼之時 加輿丁相勤来候処ニ田島浦六戸備前守殿御領ニ相成 先例之通ニ御当役佐世長門守殿 榎本中務大夫殿へ申出候処 達御耳ニ旧例之通り 加輿丁差出候文面左之通り

御奉書拜見候 大崎一宮御祭礼之時 加輿丁之事 如先年私領内田島へ可申付之内存
其旨候 恐惶謹言

八月六日

完 備前守

元統 書判

佐世長門守殿

榎本中務太夫殿

右加輿丁 今ハ絶

同十一日

御祖社祭日 土屋家勤之

同十六日

御本殿へ遷宮別当勤之 兩大宮司差幣 上遷宮之上神勤席並之凶左之通

<p>佐甲大宮司 別当 内陣 土屋大宮司</p>

右神勤相濟候上

御靈代之幣帛貳本共ニ土屋取下候事

次ニ七拾五膳別当内陣ニ控居獻之 佐甲其外下陣ニテ取次之 土屋家ハ御神孫之儀ニ付

僧徒之助役一切不仕候事

次 御膳献供之上 於下陣ニ 三家神勤席並之図左之通

大宮司
別当
北向
大宮司

拔穂之神事 吉日を撰ひ 神官斎して如例之 其地ニ参向して田のはらひす 拔事田別

十束 郡司沙汰して御社之稻蔵に納之 今ハ絶

景行天皇

仲哀天皇 臨幸の時 重き公事を御社に行かれしより 後の例となれり 宮城とし仮宮

の跡 今ニ有之候事

九月九日

神勤 三家勤之

十一月

九炊祭 今ハ絶

十二月

御歳越 御祈禱 三家勤之

年の夜 御祈禱 前同断

同晦日

大はらひ 両大宮司勤之

御社御造宮御修復等にて

御遷座式

御神幣三本 内陣ニ有之内 一本苑土屋家より御幣持 其外へ相渡候事

御仮殿へ御遷座之節行道

先塩桶 次御太刀 次御幣持

御神体

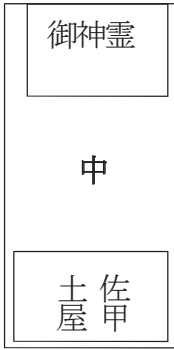
右大宮司土屋美濃守

奉守遷宮之事

供奉

大宮司佐甲馬人

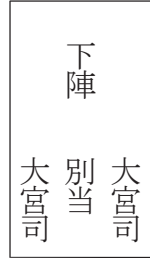
右遷宮処 神勤席並左之通



右上下遷宮式 上古之通 土屋家勤之候事

但遷宮之節 佐甲家出合無之処 明和年間 式部より供奉仕度頼ニ付 加席之事

平常三家出合神勤席並之図左之通り



右土屋家老人御祈祷之節 中央江 壇立之儀は勿論之事

一 貴様奉御社参之節 御初穂其外より備り物等之儀は何ニ不寄悉皆神主家ニ納居候処
寛政年間祖父大炊代無抛次第にて 乍内と別当へ相譲り居候事

右芳府於

一宮ニ旧古御祭典事美之白馬神事 仲秋之拔穂神事等之儀は勅祭之御神事執り行はせ玉
ふ 夫より連綿仕来候処 慶長年間 御社領下地貳百石余之地所被召上 其後御祭典悉
及廢絶ニ 歎愁泣血之至ニ奉存候然処

今般

朝廷より式内官社御取糺被仰出 誠ニ難有奉感載候 何事御社柄被対
神明へ旧古之御大典ニ御挽回シ被仰付度 依て奉深願候以上

明治三

庚午ノ十月

大宮司

土屋千尋

右祭祀局へ差出候様ニとの事ニ付

相認差出候事

三冊之内

小幡彦七へ相渡候事

明治期 玉祖神社年中行事

平成二十四年三月三十一日

校訂・編集 重枝 慎三

発行者・発行所 防府市立防府図書館

郵便番号 七五七〇〇三

山口県防府市栄町

一丁目五番一号

電話 (〇八三) 三二〇七八〇

印刷所 株式会社 浩文社